

科目名称：	染色・陶芸演習Ⅱ	
担当者名：	権田 宜子、吉岡 将式、徳田 明美、上端 伸也	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	8
授業の目的・テーマ		
1年後期に学習した染色・陶芸に関する知識や基礎的技術をもとにした技法を使い、自分のテーマを探求しながら素材を選び作品を創作する。そしてオーディションで発表することで、自分の作品が意図することを伝えることを学び、互いに研鑽しながら技術を磨き作品性を高める。		
授業の達成目標・到達目標		
【染色】基礎的技法をもとに課題に取り組むことで自己の表現をさらに展開していき、公募展に出品することを目標とする。 【陶芸】表現と技法との関係をより密接にして土の持ち味を探求する。制作・成形の中で本焼きの釉薬を研究し、上絵や染付け、線彫りなどの技法を修得しながら表現の幅を広げる		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	技術の習熟度	提出課題 (レポート含む)	制作への関心度 ルーブリック	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)		30	50	20	100
美術DP(3)					0
美術DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》権田宜子／加賀友禅染色工房（有）千紅	《経験年数1》 8年
	《内容2》上端伸也／ちゃわんやいちだ 虚空蔵窯	《経験年数2》 11年間
	《内容3》吉岡将式／妙泉工房 九谷青窯	《経験年数3》 4年間 6年間
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解	染色・陶芸について良く学び、一年次よりさらに理解することができる	染色・陶芸についてよく学び、よく理解することができる	染色・陶芸については学んだが、少しは理解することができる	染色・陶芸については知っているが、理解までは至っていない
表現力	様々な道具の表現について、理解できたので使っている	様々な道具の表現について、理解できたので使ってみよう	様々な道具の表現について、良く理解できる	様々な道具の表現について、少し理解できる
知識	染色・陶芸についての種類や技法を知り、さらに調べて使っている	染色・陶芸についての種類や技法を知り、さらに検索し調べた	染色・陶芸についての種類や技法を知り、他にも学びたいと思う	染色・陶芸についての種類や技法を知っているが、使ったことがない
意欲	染色・陶芸について、さらに追求し、技術を身につけて表現したい	染色・陶芸について追求し、技術を身につけたい	染色・陶芸について、少し興味が出てきた	染色・陶芸は難しいと思う

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1週 【染色】・課題①自由テーマ/30～50号綿布 図案制作 【陶芸】・課題①電動ロクロ成形	・染色や電動ロクロを始めるにあたり、素材や道具について関係書籍を読んでおく。	40分
第2週 【染色】・課題①自由テーマ/30～50号綿布 図案制作 【陶芸】・課題①電動ロクロ成形	・素材や道具を使ってどのように展開し進んでいくかを関係書籍を読んでおく。	40分
第3週 【染色】・課題①自由テーマ/30～50号綿布 下絵 【陶芸】・課題②タタラ成形	・タタラ成形を始めるにあたり、素材や道具について関係書籍を読んでおく。	40分
第4週 【染色】・課題①自由テーマ/30～50号綿布 糊置き 【陶芸】・課題②タタラ成形	・糸目技法で仕上げた着物や作品を鑑賞し、完成予想図をまとめておく。	40分
第5週 【染色】・課題①自由テーマ/30～50号綿布 彩色 【陶芸】・課題③石膏型作り	・石膏型作りを始めるにあたり、素材や道具について関係書籍を読んでおく。	40分
第6週 【染色】・課題①自由テーマ/30～50号綿布 定着 【陶芸】・課題③石膏型作り	・作業を始めるにあたり、素材や道具について関係書籍を読んでおく。	40分
第7週 【染色】・課題①自由テーマ/30～50号綿布 水洗・乾燥 【陶芸】・課題④加飾技法/上絵のためのスケッチ	・スケッチしたそのものを表現するのではなく、工芸技法をもとにデザインを考える。	40分
第8週 【染色】・課題②型染め技法/浴衣 図案制作 【陶芸】・課題④加飾技法/スケッチからデザイン化する	・型染め技法で表現された浴衣を鑑賞し、完成予想図を描きまとめておく。	40分
第9週 【染色】・課題②型染め技法/浴衣 型彫り 【陶芸】・課題④加飾技法/釉薬の研究	・染料や釉薬について、関係する書籍の読んでおく。	40分
第10週 【染色】・課題②型染め技法/浴衣 試作 【陶芸】・課題④加飾技法/窯焚きについて	・作業工程どのように展開し進んでいくかを関係書籍を読んで学習しておく。	40分
第11週 【染色】・課題②型染め技法/浴衣 白生地の手探・裁断 【陶芸】・課題⑤生活空間にあるものを創作・構成させる	・着物の構造や寸法について書籍を読み、箇所の名称を覚えておく。	40分
第12週 【染色】・課題②型染め技法/浴衣 糊置き・地入れ 【陶芸】・課題⑤生活空間にあるものを創作・構成させる	・テーマとなる生活空間にあるものを取材し、スケッチから自分の表現を考える。	40分
第13週 【染色】・課題②型染め技法/浴衣 地染め・水洗・乾燥 【陶芸】・課題⑤作品のエスキースを考える	・工芸技法をもとにデザインを考え、作業工程をもとに制作準備をする。	40分
第14週 【染色】・課題②型染め技法/浴衣 仕立て 【陶芸】・課題⑤完成図をもとに制作する	・浴衣の仕立ては、道具を使ってどのように展開するかを関係書籍を読んでおく。	40分
第15週 【染色】・オーディション(プレゼンテーション・講評会) 【陶芸】・オーディション(プレゼンテーション・講評会)	・講評会で自分の作品コンセプトの内容を小レポートとしてまとめておく。	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
課題作品の提出を原則とし、作品評価(50%)、技術の習熟度(30%)、制作への関心度・ルーブリック(20%)

#### 課題に対するフィードバック

公開オーディションで学習成果を発表し、各教員からのコメントシートでフィードバックする

#### 教科書・参考書

【参考書/染色】 和のふだん着 株式会社東京印書館 1,000円+税  
【参考書/陶芸】 陶芸を学ぶ(1) 京都造形芸術大学 角川書店 4,800円+税